

案ずるより生むが安し

案ずるより生むが安しとは、まさに今回のお茶会であった。子供達は、きちんと正座し茶栓を上手に動かしてお茶をたてた。最後の一滴を飲む時の音を立てて吸うというしぐさはできなかった。彼女達の生活習慣にはない、忘れ難い飲み方だったことでしょう。

裏方の女性達は、汗だくで茶を運び、休めることなく茶栓を持つ手を動かし、一時間余りで六十人余の人達に日本のお茶を味わってもらった。女性軍、本当にありがとうございました。

国際交流の根本は、基本的な価値観をどの位共有できるかにかかっているといわれている。自他の歴史を学び、現在の考え方や生き方を知ることがこれから大切な事と思われる。

にほん庭園に茶屋ができれば、じっくりと一日中「お茶会」を開き、日本の童謡や昔語りをしてみたいなあとも夢を見ている。

シェリーさんの故郷 ニュージーランドの旅

NZに行くことが決まり、北部小でALTのシェリーさんとお会いする機会があった。その時、シェリーさんの故郷 NZ の写真をたくさん撮ってきて子ども達に紹介したら、子ども達とシェリーさんのコミュニケーションがより図れるのではないかと、それから、できるだけ子ども達の様子も撮ってきたいなあとも思ったところでした。

マールボロウ市に向かう途中休憩を取ったところが、「CHEVIOT AREA SCHOOL」の前だったので、カメラを持って出かけたところ、休憩時間で、高学年の子ども達はサッカーをしていたが、3～4年ぐらいの子が門の近くにいたので、写真を撮らせてほしいと身振りをお願いしたところ、他の友達を連れてきてモデルになってくれた。お礼に将棋のキーホルダーをプレゼントしたところ、飛び上がって喜んでくれた。



レッドウッドタウン小学校でのお茶会の席で、五感で日本の文化



を感じ取って頂こうと、「さくら」の曲を流した所、それまでざわついていた小学生や高校生を含めた市民の方々が、一斉に話を止めて音楽を聴き入ってくれた。それが印象的だった。市民全体がマナーを身につけ、純朴で温厚な人柄と感じた。

帰ってきてから写真を整理して北部小に届け、国際交流の掲示板に張ってもらい、NZをより身近に感じ取ってもらえたらと思っている。

思いが叶った日

平成七年に着工されたという日本庭園の完成を想像しながら、平成十五年、市民プラザで開催された「ニュージーランドウィーク」など、殆どの協賛キャンペーンに、楽しくお手伝いをさせて頂きました。その時から、ニュージーランドへの憧れは募る一方でしたが、夢は実現したのです。マオリ族の力強い歌声に迎えられて目にした日本庭園は、友好のシンボルに相応しく、閑静な中に、まさに誇らしげに、堂々と佇んでいました。これからは、ニュージーランドの多くの人々が日本庭園を訪れて、日本、そして天童市に関心を持って欲しいと願っています。この広く美しい日本庭園の完成までには、色々な御苦労もあったと思います。関係者の皆様、本当に有難うございました。

姉妹都市委員のフィル・ブラッドショウさんとの再会も、最高の思い出となりました。

ブラッドショウさんとの出会いは、青少年大使と共に来童された時、ふとした事から、私の家へ来て頂く事となり、以来、とても穏やかでエレガントなブラッドショウさんが大好きになり、ずっと文通を続けています。

プレナムにあるお宅へも連れて行って頂きましたが、可愛らしいお部屋と、バラのアーチの庭がとても素敵でした。七十八才であんなに生き生きと交流会に参加されたり、まめに私にお手紙を下さるお人柄に、いつも励まされます。マールボロウ市民の方々との交流会でも沢山の方々と思いやりのある温かい心に触れられて、掛け替えのない結びつきが出来ました。今回のニュージーランド訪問でお世話になったマールボロウ市の皆様、そして訪問団員の皆様、御一人お一人の事、忘れません。

写真指定あり

「雄大な自然と心の温かさに感激」

風薫る日本から約9000KM離れた南半球、ニュージーランド。

約11時間のフライトの後、紅葉真っ盛りのクライストチャーチに到着。

そこでは、イギリス風の街並みに落ち着いた風情を感じました。翌日はバスの中から自然の雄大さを感じながら目的地マールボロウ市に到着。早速その日は歓迎夕食会に出席しました。ソウマン市長をはじめ、商工会議所会頭、そして天童でもおなじみのバルサンティ市議など大勢の方々の熱烈な歓迎を受け、マールボロウ市の方々の心の温かさを感じました。最初は緊張しましたが、時の経つのも忘れて楽しいひとときを過ごしました。次の日は、10年の歳月を経て完成した「日本庭園」のオープニングセレモニーが行われ、カエデの記念植樹や両市の友好の架け橋「天童橋」、そして日本文化を伝える抹茶のもてなしなどを通じて両市が固い絆で結ばれていることを実感しました。私は事務局として初めて参加させていただきましたが、「百聞は一見にしかず」実際に自分の目で確かめることができ大変有意義な訪問だったと思っております。

マールボロウ訪問団に参加して、

ニュージーランドは初めて訪れる国。秋の紅葉で落ち葉があり、肌寒く感じましたが、日本と違った自然の美しさに感動しました。

クライストチャーチからマールボロウまでの車窓から見た景色、牧草の山々、羊の群等が目に焼きついています。

天童市姉妹都市締結15周年記念の交流会やお茶会、マールボロウのマッケンドリーさんはじめ地区の皆さんの陽気で心のこもった歓迎を受け、プレゼント交換等と楽しいひと時を過ごすことができました。言葉が通じなくても、お互いの気持ちが通じ合い、意義あるものと感じました。

リズ・クロマティさん、高校生達の再来日を楽しみにしています。そして姉妹都市交流が長く続くことを願っています。

添乗員の今野さん、団員の皆様に大変お世話になり、ありがとうございます。

姉妹都市NZ マールボロウ市を訪問して

成田より約十一時間のフライトで五月十八日

小雨のクライストチャーチに到着。街並みのしずけさ、ゆっくりと時間が流れている生活もよう、翌朝目的地マールボロウ市へバスで五時間、車窓よりNZ最大と言われるカンタベリー平野の草原に群れなす羊、牛たち、どこまでも続く大平原、ワイン用のブドウ畑、壮大なスケールのこの美しい光景は忘れられない。

まっすぐに延びた二車線道路で、すれ違う車は、時折見かける程度。

国土、文化、歴史などにも触れた。交流夕食会は緊張した。言葉が通じない身振り手振りで片言の英語で話をしていると、通じたような気分になった。

女学生と先生が九月に来童するとの事で、再会を約束してわかれしました。

印象に残ったマールボロウ訪問

市総合政策課の広報係として参加させていただきましたが、初めての海外ということもあり、とても印象に残る訪問になりました。

90人という大勢の人の歓迎を受けた交流夕食会。女子高校生も最後まで参加(午後10時を過ぎていた。いいのかな?)し、どう進行するのかわからないまま、若干圧倒されながらも楽しい時間を過ごしました。小学生からお年寄りまで大勢の人が集まった日本庭園開園式。あいにくの小雨でしたが、贈ったこいのぼりは、賑やかな雰囲気になって良かったと思います。そして、訪問団主催のお茶会。正座のできない大人とお茶を飲んだ後の子どもたちの顔(笑顔?)が印象的でした。

今回は、子どもたちが大勢参加してくれて、これまで以上に交流が広がったような気がします。ただし、団員の人は、午後11過ぎまで打ち合わせをしたり、朝が早かったりと大変だったと思います。でも、その分、マールボロウ市の人、特に子どもたちには今回の訪問団は印象に残ったのではないのでしょうか。

訪問団は21名の参加者でしたので、一人ひとり名前と顔が一致し、なごやかに、楽しく過ごすことができました。また、カメラを向けるといい笑顔をしていただきました。参加されたみなさんとマールボロウ市のみなさん、それにニュージーランド航空に感謝したいと思います。ありがとうございました。

NZが人をひきつけるもの

NZに一度行った人が、また行きたいと耳にする。人をとりこにするNZを見たかった。

出発前に体調を崩し、薬を携えて不安と期待を乗せて成田を飛びたった。眠れぬままに朝方、初秋のNZに到着した。

美しい街並、自然なる河川、どこまでも続くブドウ畑の畝、郊外の街道でのバスの車窓から見える広々とした緑の草原に白い羊の群。別世界の感じに眠気も吹っ飛び、体調のことも忘れさせてくれた。食膳に出るワインの美味しさは格別で、1日目はセーブしたが二日目からブレーキがきかなくなった。東京にいる小三になる孫から「NZは人間より羊が多くいるそうだ。お土産に手袋、帽子がいい」との電話があった。

交流会やホームステイ等で出会ったNZの人達の明るさ、おおらかさはどこからくるのだろうか。こんな人間味も人を魅了する一つかも知れない。

ふれ合いの温もり

ニュージーランドの旅も、訪問団として旅も初めてです。思い切って二人で参加しました。

自然の雄大さはもちろんのこと、個人の観光ツアーでは体験できないことを数多く体で吸収してまいりました。その感動の一端を述べたいと思います。

その一つは両市の交流会でした。90名程の方々が笑顔で迎えてくれました。それでも主人と二人緊張しながらテーブルに着きました。すると握手を交わしながら一人一人日本のことに触れてくれるのです。富士山に登ったこと、東京のこと、教会のことなど私たちのかめに話題を考えてくれていたようでした。

互いの手の中に温かい交流の温もりが伝わってきました。それから、二人で書いた色紙を見せて英語に訳したり、造花を見せたり、折鶴では歌がとび出したりするほどでした。

通訳は可愛い女子高校生、あまり頼りにならない片言の日本語でしたがその明るさは肩の荷をほぐしてくれました。

次の二つ目は、翌日の日本庭園の開会式です。会場に到着すると、雨の中に、地域の人達ばかりでなく、大勢の小学生、中学生、高校生が輪になって迎えてくれました。特にマオリ族の高校生の歓迎の歌には伝統の強さを感じました。待望の日本庭園は広大な草原に調和した石組みがされ、滝から落ちる水の流れがとても清らかでした。

そして式典が終わった時のことです。高校生が7,8人走ってきました。昨夜の交流会の彼女が「マイフレンド」を紹介してくれました。それぞれ自己紹介しながら、「わたしも天童に言って見たい」「会えてうれしい」とか一言一言返って来るのです。私はただ「サンキュウ」の繰り返し、目頭が熱くなってきました。彼女達の笑顔がいつまでも残っています。また茶会の後で、小学校の女の先生からは、「この着物や茶器は授業の中でも使わせてもらうよ」とのこと、更に「今度は私の学校にもぜひ訪問してください」などと案内も受けました。

この旅は訪問団員の方々だけでなく、たくさんの人の細やかな人情にふれ、マールボロウの人達との絆も深まったような気がします。もう一度行ってみたいと思っています。

マールボロウ訪問団に参加して

成田空港より、10時間の空の旅を経て、晩秋のクライストチャーチ空港に入国して、英国の情緒ある街並みと平屋造りの家、良く手入れされた芝や庭園に、ニュージーランド第三の都市、通称ガーディンシティといわれて当然と思いました。

さて、訪問の目的であるマールボロウ市、ハーリング公園に完成した、日本庭園のオープニングセレモニーに出席し、霧雨の中、傘もささずに笑顔でマオリ族の血を引く生徒の歌と踊りで歓迎してくれた事が、とても印象に残りました。

地元の小学校での交流茶会では、ソウマン市長夫妻をはじめ、多くの人が出席され、小中学校生も興味深く感心をもった様で、忙しいスケジュールの中、とても充実した時間でした。私達が忘れてしまった、人に対しての心遣いを感じた今回の訪問でした。

マールボロウ訪問団に同行取材して

「最初は怖い印象があったけれど、みんな優しかった。日本に行ってみたくなった」。マールボロウ市内の小学校で、訪問団員たちが開いたお茶会に参加した地元児童らの感想だ。純粋な子どもたちの素直なこの一言が、今回の訪問の何よりもの成果だろう。女性団員たちが浴衣や茶道具を日本から持ち込み、前日深夜まで検討に検討を重ねて臨んだ茶会。「何とか日本文化の一端をNZの子どもたちに味わってもらいたい」との団員全員の思いは、国境や言葉の壁を越えて確実に届いたと確信している。

予想をはるかに上回る市民が出席した夕食交流会での歓迎ぶりも忘れられない。ふれ合って初めて分かるその国柄や人柄。NZの大自然のような大らかな心の人たちとのゆったりとした時間は大切な思い出だ。

今回のNZ訪問団に同行させてもらい、観光旅行では味わえないたくさんの経験をさせてもらった。そして、今度はこの経験を、未来を担う天童の子どもたちに少しでも伝えていければと思っている。最後に「一期一会」。素敵な団員の方々と、楽しい六日間を過ごせたことに感謝したい。

マールボロウ市民訪問団に参加して

今回、姉妹都市締結15周年を記念したマールボロウ市民訪問団の一員として参加し、初めての海外旅行を体験させていただきました。行く前は不安で一杯でしたが、素晴らしい団員の皆さんと一緒に旅ができ、大きな問題もなく無事帰国できたことに感謝しています。

今回の訪問目的のひとつであった日本庭園の開園式への参加やお茶会の開催などで、日本の伝統文化をマールボロウ市民に触れていただくことができたのは、今後の両市の友好を図る意味でも大変有意義なものであったと思います。

また、10年もの歳月を費やし完成した日本庭園は、マールボロウ・天童の両市にとっての友好の証であり、この公園がマールボロウ市民の憩いの広場となると共に、これからの両市の友好関係をますます強めていくものと確信しています。

今回の旅で、ニュージーランドの大自然とそこに住む人々の優しさに触れ、すっかりニュージーランドが気に入ってしまいました。機会があれば、またニュージーランドに行ってみたいと思う今日この頃です。

団員の皆さんには、大変お世話になり本当にありがとうございました。

国際交流の絆深めて

初の外国旅行がこの度の交流会でありマールボロウ市民との心温まる集いは生涯忘れえぬ思い出となりました。

人間の数より羊の多い国、山の頂上まで広がる草原、早朝から草原に群がる羊、広大なワイン畑どれをとっても雄大で人々の気持のおおらかさが伝わって来ました。天童市と姉妹都市となりしことに納得、記念に造りし日本庭園もスケールの大きさに感激して、滝の流れに心の洗われる思いでした。樹木も気候に馴染み街路樹のように太く育つことを願い、何年後の成長を楽しみに健康であったらもう一度と、思いながら酔い心地のなり下手な歌を浮かべ詠んでみた。

“ 風冷えて早や枯葉散るマロニエの街路樹太きマールボロウ街 ”

広々と芝生の庭にお菓子のごとく色とりどりに平屋の街並。これを契機に交流を益々深めて、天童市の子供達が語学に興味を持ち自由に英会話が出来る様に大きな夢を持ってほしいと願いつつ。

さわやかな国へ旅をして

「お前もニュージーランドに行くか？」の主人の言葉に「行く！」の一言で決まってしまった思いがけない二人一緒では初めての海外旅行。わくわくドキドキでした。

今回でニュージーランドへは3度目だった主人より、素晴らしい国との話は聞いておりましたが、私はクライストチャーチの住宅に目を奪われてしまいました。広い敷地に建つおとぎの国に来たかと思えるような様々な外観の平屋の住宅はとっても素敵な建物でした。大事に手入れされた住宅に感心させられ、その住宅にマッチした芝生や花・樹木と緑豊かな手入れが行き届いた庭には感心するばかりでした。ぜひ、この地に住んで見たいと思ってしまいました。

マールボロウへ向かうバスの窓から眺めた壮大なカンタベリー平野の羊・牛・ブドウ畑に「うわぁ～すごい・素晴らしい」の声が連続の感動しながら景色を眺めたバスでの移動は最高の思い出です。

地元の方90名も出席しての交流会、最初は食事を選ぶのもままならぬほど緊張いたしました。でも懐かしい方、マッケンドリー元市長ご夫妻にお逢いすることができました。7年前に天童にいらした折に差し上げた私の作ったロマンドールを大切に下さっているとお話でとても感激してしまいました。

【言葉が通じなくても心は通じる】でも「会話がしたかった」これが実感の交流会でした。

日本庭園の開園セレモニー・交流会等普通の観光旅行では経験できない今回の旅は、素晴らしいものでした。ご一緒させていただいた皆様素晴らしい出会いをありがとうございました。

三度目も正直

1990年、1994年に引き続き11年ぶり、3度目の訪問でしたがニュージーランドは今回も私を裏切りませんでした。あの広大な牧場に無数の羊、牛、鹿、馬、最近は大ダチョウまで、大自然に抱かれながら悠然と、草を食んでいる様子は、時計がとまったようで、それを眺めているだけで気持ちを癒してくれます。この風景こそ私に「ザ・ニュージーランドだぁ」と言わしてくれるのです。又、今回気がついたことに、牧場の一部がワイン用のブドウ畑に転用され農業の多角経営に乗り出しています。それと各地に植林が行われており地球温暖化防止にも力を入れている様子が伺え、益々ニュージーランドが好きになりました。今回の訪問は、マールボロウ市との姉妹都市締結15周年記念事業として、天童市国際交流協会が企画したもので、本来なら昨年が15周年でしたが、かねてから造成中であった日本庭園が一応完成をみました。それを待って今年、霧雨の中、開園セレモニーを兼ねての15周年記念式典でした。私のイメージした日本庭園とは程遠いが、今後、池の周りに重点的に植栽、石組み、茶室などを造成していけば、それなりの庭園になると思います。これからも市民同志が協力し合いながら、立派な日本庭園を完成させていく努力を惜しんではいけないと思う。

姉妹都市のマールボロウ市民は、いつも私たちを大歓迎してくれます。今回も交流夕食会には市長ご夫妻をはじめ、大勢の市民が参加され、遠来の客に対して心から手厚くもてなしを受け、感激しました。又、私はマッケンドリー元市長ご夫妻と1998年天童CCでゴルフをして以来、7年ぶりでお会いしました。ご夫妻とも元気でおられ、妻も私もともに懐かしく感じ再会を喜びました。歓迎会でよく聞かれることに、姉妹都市を結ぶきっかけとなった農業青年たちのことです。「走頭無路」(先頭を走る人には道がない)という言葉がありますが、是非こういう機会に農業青年も先輩の足跡を訪ね、友好を深めてくれたらと今回も参加者がおらず残念に思いました。

いずれにしても又今回も英語が話せないことがネックでした。ただニコニコしているだけでは国際親善や姉妹都市交流会参加は失格なような気がします。いまさら英会話教室もないですし、60歳も過ぎたし今後は若い人に託したい。天童市ではマールボロウ、マロステカ、瓦房店と3都市と友好関係を持っています。今回が特別ということではないと思いますが参加者が高齢化、固定化してきています。国際交流協会あげて、大勢の市民、若人が参画できる、しやすい国際交流のあり方、行方を再検討する時期だと思えます。

最後に、山新観光でコーディネートしていただいた旅の参加者21名、所期の目的を充分遂行し、何事もなく無事帰国できたこと有難うございました。

友好親善のシンボル日本式庭園完成

私が、10年前に設計した日本式庭園(ガーデン・パーク)がようやく完成しました。公園内には、前回5年前の訪問団で記念植樹したモミジの木も色づき根付いていました。完成した庭園は、ほぼ設計通りですばらしいものができました。今思えば、外国人から日本式庭園の魅力に興味をもたれ、そのことが嬉しくて手がけたこのプロジェクトでした。私は、このことを誇りに思っています。それから、庭園完成に向けて天童・マールボロウ両市の市長をはじめとする多くの市民が協力してくれたことに感謝します。将来、この日本式庭園(ガーデン・パーク)が天童・マールボロウ両市の友好親善のシンボルとなり、植樹された樹木の成長と共に両市の関係がさらに発展することを祈念いたします。

また、今回は3度目の訪問ということで、友人も増えて、家族で楽しくお付き合いできるようになりました。おかげさまで私の人生にとって有意義な時間を過ごす事ができました。

異国で見た日本庭園

十年前、思ってもみなかった姉妹都市マールボロウに日本庭園を作るという話をいただいて、主人はもちろん私も胸がワクワクしたのを思い出します。それから十年。完成するまでの間、多くの人々との出会いがあり、遠くはなれたニュージーランドにも多くの友人ができました。主人にとっても私にとってもこのことが一番の財産になったと思います。

初めて行ったニュージーランドで、初めて見た日本庭園は、とてもニュージーランドらしい日本庭園でした。あんなに広大な土地に造ることができたのですから。異国の地で見る日本庭園はまたいいものですね。ニュージーランドの人々に、是非ここに来て日本を感じてほしいです。

特に印象に残った場所はクライストチャーチです。私はあのイングリッシュ調の街が大好きになりました。マールボロウではみんなが歓迎してくれてここもまた大好きになりました。是非またみんなに会いに行きたいものです。

『天童市マールボロウ訪問団』添乗員同行記

まずはこの度、5年に1度の公式姉妹都市訪問団を当社にて旅行主催を賜りましたこと、誠に有り難うございました。大いなる名誉と喜びを感じております。

さて、大げさに言えば、我が日本国とニュージーランドとの真の友好関係を築くべく団員一人ひとりが親善大使としての責任と自負心に満ちた心地よい緊張感の空気が漂うバスの車中、我々は一路南半球に向け市役所より出発しました。ともあれ、6日間をこの誌面にて全て語るのは難しいが、団員の方々のまぶたと胸の中には、雨上がりにきらめく緑の眩しさ、手が天に届くがごとくの空の爽快さなど、雄大なニュージーランドの大自然、そして人々の驚くほどの朴訥さ、これらがしっかりとしみ込んだことと思います。

いずれにしても、たった一つの地球。それぞれの国が違うというのは、生き方の表現方法が違うだけ。今回の訪問団の小さなステップはいずれ大きな国際平和へのエキスとなることを、心よりお祈りしております。

マールボロウ訪問団の皆様へ

ニュージーランドは、いかがでしたか？

私にとっては、思いがけない急なことでしたが、マールボロウ市と一緒に訪問させていただき、ありがとうございました。

皆さんが帰国されてからは、クライストチャーチは穏やかな天気が続いています。私の方は、現在、テスト期間中で、頭が2つ欲しいくらい忙しくしています。

マールボロウでの交流会では、参加者が多くて、初めは戸惑いでしたが、「せっかく姉妹都市に来たのに、言葉が通じなくて楽しくなかった」なんて、ならないようになるべく多くの方のテーブルを回って、できる限りの通訳をしたつもりでした。訪問団の方から「酒井さんにいてもらって、本当に良かった」と言っていたいた時は、心から嬉しく思いました。

それに、私の天童の家にホームスティしたことのある弁護士のクリクトンさんやマッケンドリー元市長さんとも、12年ぶりにお会いすることができました。またバルサンティ議員さんからは、「大学卒業後に、マールボロウ市で働きたいのであれば、連絡するように」とも言っていただきました。

これからもいろいろな面で、私なりに日本と第二のふるさとニュージーランドの架け橋になれるよう、がんばっていきたいと考えています。

帰国した時には、皆さんと天童でもお会いすることがあるかと思いますが、またニュージーランドに来られる機会がありましたら、ご連絡をお待ちしています。

最後になりますが、国際交流協会や市役所の皆さんからは、いろいろとお心遣いをいただきまして、本当にありがとうございました。

2005年6月5日

クライストチャーチより